

世界選手権の普及への成果

世界オリエンテーリング選手権大会
副実行委員長 小野盛光

世界オリエンテーリング選手権大会(以下世界選手権)には低迷する日本のオリエンテーリングを上昇気流に乗せるという大きな期待がかけられていた。しかし……。



低迷状態を打破するために世界選手権を日本に誘致しようという動きは1990年代はじめころからあったと記憶している。

1990年代後半になり、具体化し、2005年の開催地を決める2000年8月の国際オリエンテーリング連盟の総会に望むこととなった。

世界選手権への期待

オリエンテーリングマガジン2000年の8月号に当時、誘致委員長であった落合公也氏に日本での開催の意義を村越真がインタビューをした記事がある。

先のワールドカップでもそうだったように世界選手権ともなればメディアの注目が集まります。日本においてマイナースポーツであるオリエンテーリングにスポットライトがあたるわけです。そうすれば多くの国民がこの競技を知ることになり、普及につながります。地元開催となれば日本人選手の活躍も期待したいではありませんか。開催が決まればこれから5年間には今ま

で以上に選手強化が行われることでしよう。

(中略)

2008年オリンピック開催地として大阪や北京が立候補しています。2008年の直前での開催となる世界選手権に日本国民の注目が集まれば、オリエンテーリングの五輪種目化に弾みがつくわけです。

愛知万博は「環境万博」と呼ばれています。その理念は「自然との共生」です。五輪で批判的となる競技場建設もなく、自然の中で行うオリエンテーリングというスポーツの理念は愛知万博のそれと同一です。

そのようなことから、世界選手権は愛知万博のイベントのひとつとして、万博の期間中に開催されます。つまり世界選手権のニュースは万博のニュースとして世界に発信されます。

(中略)

また、世界選手権の表彰式は万博の会場で行う計画です。表彰式の前にはその日のレースのダイジェスト版を会場の大型スクリーンで放送して、続いて表彰式を行います。万博の会場に来ている何万人ものお客さんが新しいチャンピオンの誕生を祝福します。

この表彰式のスケールはこれまでの世界選手権の比ではありません。ここにマイナーであるオリエンテーリングがおおげさな可能性があります。(以下略)

5年間の努力の結果は

しかし、テレビでの放映は誘致が決まった直後のニュースで極短時間で流れたのみで、新聞報道も時々合宿の様子がごく限定された地方版に小さく載せられたのみであった。大会期間中のテレビではニュースすらなく、8月10日の中日新聞(本大会後援)万博コーナーでの愛知県民館での催しも「額田・作手・下山の日」とあるだけで、オリエンテーリングの開会式との表現は一切なかった。

静岡で2000年に開催されたワールドカップはスポーツ欄への記事掲載、テレビニュースでの報道などがあり、世界選手権ではそれ以上の大きな期待を持ったが、空振りに終わってしまった。

日本のメディア取材がまったく無かったことを残念がる声を多くの人から聞いた。

その大きな要因として、私は成績に期待が持てないことをメディアが理解したのではないだろうか考える。競技の結果はトータルでは確かに過去最高の成績であった。

しかし、スポーツとして報道するは許容レベルには達していなかった。小野清子前JOA会長が「世界選手権を開催するならメダルを取る実力が無ければだめだ」とおっしゃられていたが、まさに、その言葉どおり、メディアにはそっぽを向かれてしまった。

強化の対象となった皆さんは練習環境を整えようと、仕事を変えるなど、大変な努力をしていただいた。頭の下がるおもいであるが、オリエンテーリング一流国の選手や、わが国のメジャースポーツの選手に比べると、マイナーゆえに現状ではどうしようもない環境であるといえる。また、陸上選手や自衛隊から素質のある選手を取り込もうとしたが、自前の世界であるゆえに、早々に挫折したとも聞いている。

オリエンテーリングをメジャーなスポーツにするため、みんなのスポーツにするために、世界選手権で勝てる選手を育てることは間違っていないと思う。ジャバニーズ・シモーネを育てることがJOAの大きな課題である。

成績が期待できなくても、新聞の社会面やニュースでの取り上げはあってもよかったのではと思う。後援の中日新聞社の記事は「記者会見(西三河版)」「世界トレイル0選手権(愛知県内版)」の2点。

大会会場へ地元の方が見えた様子は感じられなかったし、大会当日関係者へお礼の挨拶に伺ったり、電話をしたら、「今日だったの?」という言葉が2度聞いた。いかに関心をもっていただけなかったか、痛切に感じた。

世界選手権をもってしても変えることができなかった社会環境。大会終了後、クラブの人と食事をしながら、報道の中から「地図とコンパスを使って、山野を駆けるスポーツ」ということばがなくなったとき、オリエンテーリングは一人前になる、そのときを夢見てがんばろうと話した。

(小野盛光)